



議会だより

No.30

2013年5月1日 発行
発行 仙北市議会
編集 仙北市議会
広報編集・特別委員会



見事に咲いた桧木内川堤のソメイヨシノ(説明は4ページで)

2月定例会・主な内容

仙北市議会2月定例会

予算常任委員会報告……2～4

一般質問…………… 5～12

各常任委員会報告… 13～16

傍聴席・編集後記………… 16

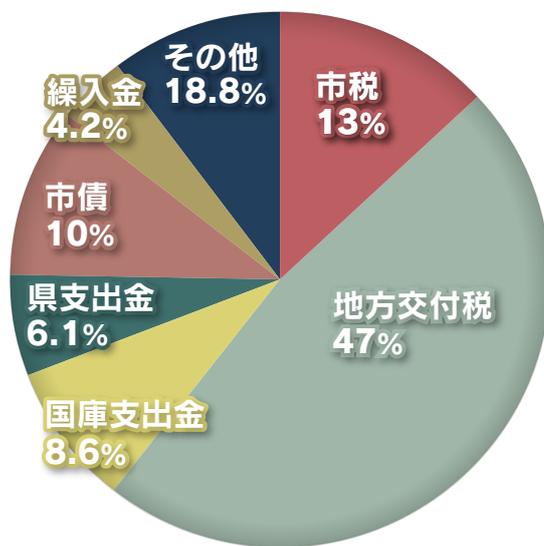


平成 25 年度一般会計予算は 188 億 2.000 万円を計上

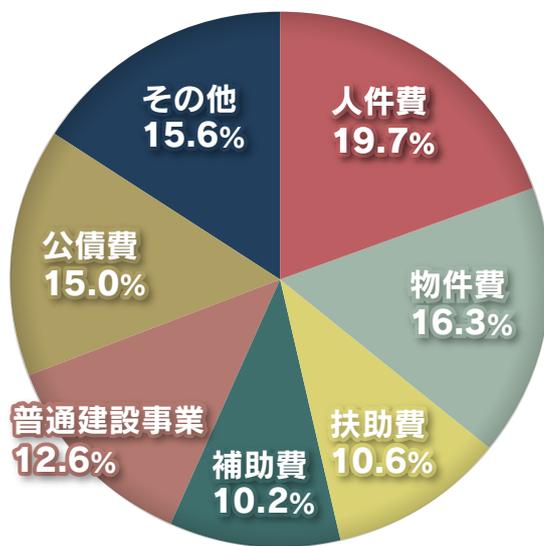
前年度対比 5 億 8.100 万円増の過去最高を記録

民主党から自民党への政権交代によって、国の予算配分の一部見直しが求められ、県においても知事改選期にあたり、骨格予算にとどまる等、先行き不透明な部分が多い中で、25年度の予算編成であり、本市の依存財源比率の高さを考慮すれば対前年度当初予算比+3.2%（5億8,100万円増）の188億2,000万円はかなり強気の編成と言える。果たして身の丈に合った妥当な編成なのか、不要不急な事業や補助金が含まれていないのか、23年度の本市の経常収支比率は22年度から3.0ポイント上昇して92.3%になり、財政硬直率が県内25市町村で最悪になった。激しく人口減少が進む中において、本市は自主財源比率が低い上に、政治の根幹である徴税率も悪く、全体として財政に対する危機感が薄い。縮み行く地域社会の中、今後市立角館病院の建設をはじめ、角館庁舎の移転、本庁舎の建設等、いずれも避けて通れない大事業が待ち受けており、ここは幾らでも辛抱して各基金を積み増しする必要はないのか。近い将来財政破綻さえ懸念される中、市当局の中長期的な展望力と議会としての権能が強く問われる。

歳入の概要



歳出の概要



特別会計

114億5,320万円

(前年度比+0.5%)

930万円増) 主な増減は

○簡易水道事業特別会計、西明寺地区簡易水道拡張事業前倒しによる事業費の減。(△230万円)

○下水道事業特別会計、公共下水道事業費の増。(+1億4,930万円)

企業会計

66億4,892万円

(前年度比+4.4%)

2億8,057万円の増) 主な

増減は病院事業会計の角館総合病院に係る用地購入費、実

施設計委託の増(+2億8,057万円)

本定例会では25年度一般会計予算案など65件、24年度補正予算案、議員報酬削減案(議員提出)など追加提案6件をそれぞれ可決した。24年度の補正は4億6,154万円で累計最終192億1,982万円になる。うち主な補正内訳は、豪雪による除雪費の追加1億3,430万円(市一般財源充当率88%)▼大曲仙北広域市町村圏組合消防・救急無線デジタル化整備費負担金1億8,641万円(現在アナログで運用されている

消防救急無線をデジタル化してチャンネルを増波し、不感地帯の解消と雑音を軽減するもの（市一般財源充当率5%市債95%）▼生保内公園野球場改修費1億1,850万円など。（市一般財源充当率3%市債47%）議員報酬の削減案は昨年の4月から1年間実施されてきた報酬5%削減をさらに1年間延長するもの。以下25年度一般会計分については特筆すべきものと議会で特に問題になった予算案についてのみ概要をお伝えします。

予算委員会（各常任委員会委員長報告に對する質問他）

●総合産業研究所費4,157万円（市一般財源充当率48・5%）

①園芸作物試験圃設置事業②商品開発アドバイザー派遣③消費者モニター設置④首都圏販路拡大⑤近隣消費地販路拡大・市内飲食業地産地消促進▼委員からはスタッフを11名から7名に縮小する様だが、これと言った成果が得られていない、これを機に本来の農林部に

吸収するべきとの発言があった。

●秋田県種苗交換会協賛会負担金4,250万円（市一般財源充当率48・5%）

「第136回秋田県種苗交換会」に係る仙北市負担金▼委員からは開催が本年10月31日からになる。第二会場が田沢湖高原では一本道の行き止まりで交通に問題があり、定期的に降雪の恐れもある。岩瀬河川敷にするべきではとの発言があった。

●木質バイオマス施設管理運営費5,215万円（市一般財源充当率98%）

森林資源を有効活用し環境型林業の確立に資する。木質チップを燃料にしてクリオンと、にしき園に電気と温水を送るもの。▼委員から月島機械による大規模改修の後も当初約束どおりの運転実績が得られていない。まだ実証試験のような状況にある。素人での運転は無理だ、月島機械に運転させるべき、運転によって年間幾らの赤字が出ているかも不明だ。今後も不調なら損害賠償請求をすべきとの意見があった。

●秋田内陸縦貫鉄道株運営費補助金7,980万円（市一般財源充当率39%・市債充当率44%他）

県が内陸線に対する補助を1億円から一方的に5千万円に削減したために沿線2市が負担するもの▽昨年度比で倍増した。

●田沢湖・角館観光連盟補助金1,340万円（市一般財源充当率70%）

DC（ディスプレイションキャンペーン）が本番を迎え、

また種苗交換会が本市開催に決定したことから受け入れ態勢の強化や誘客促進をはかるもの。▼委員から田沢湖・角館両観光協会に補助金を出しておきながら連盟としてまた補助金を支出するのはおかしいのではないかと質問があった。

●障害者（児）タクシー利用券給付事業費382万円（市一般財源充当率29%）

本市に住所を有する重度身体障害者・知的障害者・精神障害者・難病患者（特定疾患医療受給者）の外出支援のためタクシー料金の一部を給付するもの。身障手帳1級・療育手帳A・精保福祉手帳1級・難病患者（特定疾患医療受給者証所有）以上（在宅障害者に限る）

●在宅子育てサポート事業334万円（市一般財源充当率94%）

在宅で小学校就学前の児童の子育てをする保護者に対して「在宅子育てサポート券」を交付し、子育てを応援する事業。



25年度予算審査

●大規模肥育牛団地整備事業費 2億6,130万円（市一般財源充当率36・5%）

中川・黒沢・上萩ノ台に誘致される（株）大平畜産への補助▼委員からは地元からの雇用が3名程度しか見込めない資本金500万円の一般企業の誘致に1億円近い一般財源からの持ち出しは、到底考えられない。大型車両の通行や、牛肥育用の取水や、水源の汚染対策に今後さらに多額な費用が求められるのではないかと懸念する発言があった。

●仙北組合病院改築事業費負担金1億822万円(市一般財源充当率62%)

大曲仙北地域の医療を担う仙北組合総合病院整備に対し助成するもの。▼委員からは組合病院に新たに先行開業されること、市立角館病院から医師も患者も組合病院に流れ、市立角館病院の経営がさらに悪化してしまうのではないかととの関連質問があった。

●地域運営体活動推進費交付金4,500万円(市一般財源充当率31% 地方債充当率67%)

町内会や集落会等、地域の

表紙の説明

今上天皇(明仁陛下・昭和8年12月23日ご誕生)の生誕記念に、同年、冷害救農事業として檜木内川に築堤された堤防に翌、昭和9年に町民総出で600本のソメイヨシノが植樹された。携わった多くの方々が今日の樹勢を目にすることなく逝去された。武家屋敷と言ひ、枝垂桜と言ひ、なんと私達は先人に恵まれたことだろうか。今年で植樹から78年になる

(阿部則比古記)



残された上檜木内地区の光ブロードバンド整備事業費。

●岩瀬北野線整備事業費5億2,650万円(一般財源充当率11% 地方債58%)

都市計画道路岩瀬北野線の小館(内川橋)〜大風呂(横町橋)区間を整備するもの。

●角館駅東西自由通路整備事業費2,000万円

JR角館駅の東西を結ぶ自由通路整備の基本設計を行うもの。

(阿部則比古記)

団体で組織された地域運営体が地域の抱えている様々な課題を解決し所得や生活基盤の向上を図るための自主的、主体的な活動に対して支援を行うもの。▼委員からは二重行政だ。角館地域運営体は除排雪の予算が早々と尽きて、お年寄りの要請に答えることが出来なくなつた。規模も人口も関係なく500万円ありきではおかしいのでは、との発言があった。

●光ブロードバンド設備整備事業1億2,421万円(一般財源充当率31%・地方債67%)

平成25年 第1回 仙北市議会定例会 (招集日: 2/26 最終日: 3/22) 賛否が分かれた議案

凡例: 賛→賛成、反→反対 議決結果・議員評決 (議長除く)

議案番号	会派及び氏名等 件名	議決 月日	議決結果	民 政 会 議				こ 翠 の 会			侍 志 の 会			仁 政 ク ラ ブ		日 本 共 産 党		会 派 に 属 さ ない 議 員					
				伊藤邦彦	阿部則比古	狐崎捷琅	門脇民夫	小林幸悦	藤原助一	田口喜義	荒木田俊一	小田嶋忠	八柳良太郎	青柳宗五郎	佐藤直樹	黒沢龍己	高久昭二	平岡裕子	高橋 豪	熊谷一夫	田口寿宜	安藤 武	稲田 修
議案第20号	仙北市集落排水施設条例の一部を改正する条例制定について	3.22	原案可決	反	反	反	反	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	賛	賛	賛	賛
議案第31号	平成25年度仙北市一般会計予算	3.22	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	賛	賛	賛	賛
議案第36号	平成25年度仙北市国民健康保険特別会計予算	3.22	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	賛	賛	賛	賛
議案第37号	平成25年度仙北市後期高齢者医療特別会計予算	3.22	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	賛	賛	賛	賛
議案第43号	平成25年度仙北市病院事業会計予算	3.22	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛
議案第48号	平成24年度仙北市一般会計補正予算(第7号)	3.22	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	賛	賛	賛	賛

一般質問

・農業問題について

議員 藤原助一 翠巒会



質問 本市の農業が抱えている稲作問題・農家が抱える負債問題、経営安定対策問題についての対策を伺う。

答弁（市長） 農業は現在も将後は知識集約型産業に位置付けられると思う。仙北市は年間六百万人の観光客を迎えており、田沢湖・角館観光ブランド力を高め農産物の付加価値を増す戦略が重要と考える。

これ以上の減反は適切では無いと思う。

負債整理対策として、融資機関や関係団体が連携して長期低利な制度資金の借り換えを指導し誘導策を講じている。

経営安定化対策としては、県農業振興臨時対策基金の活用や農業夢プラン型戦略作物等生産基盤拡大事業がある。

市では、元気な仙北農業スナップアップ推進事業をくわいて有効活用も進めている。

関係制度や資金等ソフト面での支援をきめ細やかに行う。

答弁（副市長） 安倍首相は、攻めの農水産業展開の指示を行っている。当市においても、持続的で安定的な農業経営を行う担い手を育成していく必要がある。政府の担い手政策や基盤整備事業も最大利用しつつ、農業経営の担い手、リーダー育成を進めて行く必要がある。地産地消が地元で根付き、6次産業化による高ブランドの農産品を確立出来ればPPP参加の影響は最小限に抑えられるものと考えている。

質問 がれき受け入れに当たり、放射性物質の拡散を心配している人もいる中

で、福島、宮城から移住された方々への不安にどう応えるのか。

答弁 当市では、搬入された不燃系混合廃棄物、浸出水、原水、放流水、近隣井戸水共に、セシウム134、セシウム137は検出されておらず、安全性には問題がない。絶えず関係者、関係機関と情報交換をし、安全性の確認に努めている。

質問 名産品の創出と若者の市内就職向上についての考えを伺う。

答弁 商品開発には、商工会や市内の飲食店、食品加工業者、地域運営体、生産者による多様な取り組みがある。すでに商品化し販売もされているが名産品の一歩手前の段階である。当市は、素材が豊富なので、素材を2次・3次加工、流通させることで魅力的な商品の造成が可能と思う。雇用の開発も行っていきたい。

今春、卒業予定の生徒の就職状況については、若干の改善が見られる。今後の景気回復に期待している。引き続き雇用対策に傾注したい。

質問 玉川温泉の岩盤浴の冬場再開に向けた進行状況について伺う。

答弁 玉川温泉地区利用適正化連絡協議会（会長 県自然保護課長）は、専門家に現地調査を行っていただき

冬期岩盤浴候補地（雪崩事故を発生したテントから北西側に約100mの距離にある地点）を協議、検討をしている。

質問 田沢湖スキー場をスポーツ振興に必要な施設とするための整備についての考えを伺う。

答弁 平成19年田沢湖スキー場での国体開催で

は、雪質やゲレンデについて高い評価をいただいた。県内屈指のスキー場であると自負している。県や県スキー連盟に、国体誘致の働きかけを行っている。

ジャンプ台については、整備の仕方について関係各方面の指導や協力をいただきながら強く要望を継続していきたい。

（平岡裕子記）



再開待たれる玉川温泉岩盤浴

一般質問



・水力発電について
問う

民政会議 門脇民夫 議員

水力発電所について

質問 廃止になっている市内の小規模等水力発電所を再活用できないのか。

答弁 市内には西木町川岱と田沢湖玉川に水力発電所があった。川岱の発電所は発電容量が小さく再会しても採算がとれず、また、玉川の発電所については、現在の玉川発電所と水利が競合するため廃止となったもので再活用は厳しい状況である。

質問 小水力発電事業の進捗状況について伺う。



期待される小水力発電

答弁 県で玉川濁沢に二、五〇〇キロワット級の発電所建設を視野に調査を進めており早ければ二〇二〇年に運転を予定しているとのことである。

市内小中学校のいじめ、体罰問題について

質問 教育長のいじめについての調査結果報告では、看過できないようないじ

めはなかったとの報告であったが、調査方法が児童、生徒、保護者への一人一人への聞き取りや他人が受けているいじめ被害についても答えやすくなどの工夫をしたアンケート調査方法だったのか。

答弁 (教育長) いじめに関するアンケート調査は、小学校低学年用高学年用、中学校用と別々に準備しており、無記名や記名式にしたり、

それぞれ学校の工夫がある。そして、年一回でなく随時や定期的に調査をさせている。また、質問項目にはいじめられたのを見たことがないか等もある。教育委員会はいじめ根絶に向けて各学校の管理職との面接、校長会、教頭会での未然防止の対策、早期の発見、対応、解決に向けて積極的に一生懸命、かつ細やかに対応しているところである。

質問 体罰についての調査は実施しているのか。

答弁 (教育長) 体罰については、全児童、保護者、教職員全てに絶対許されない行為である。調査は、今実施中であり、結果報告書が四月に出る予定である。

先日、各学校の校長に電話で聞いたところでは、現時点では体罰の報告はないとのことである。

質問 いじめ防止条例の制定は検討しているのか。

答弁 (教育長) いじめを撲滅するには教育委員会、学校、保護者、地域社会の役割、責務を明確化する条例の整備が大変有効であると考えており、制定している市の情報をよく調査し検討している段階である。

雪害について

質問 今年度の仙北市の雪害について伺う。

答弁 人的被害は自宅の屋根の雪降ろし中の事故6件、除排雪中2件の8件、建物被害は、住家の一部破損2棟、非住家の全壊3棟、農林被害がハウスの全壊16棟である。

質問 空き家の雪害対策について伺う。

答弁 空き家調査の結果、危険空き家となった管理者、所有者等に2月1日付で適正管理のお願いと解体補助金制度のお知らせの通知をするとともに市広報でも周知した。その結果として、解体に対する補助金申請が1件あり現在審査中である。また、隣接者より空き家所有者に対する積雪の管理指導依頼も多く、その都度所有者宅を訪問し、適正管理と管理不全で事故が発生した場合の財産管理責任を説明し自覚を促している。安全で安心な地域社会形成が図られるよう仮称であるが空き家等適正管理に関する条例の制定を進めているところである。

(阿部則比古記)

一般質問

・農業政策について伺う



侍志の会 小田嶋忠 議員

かなと思われる。「所得を生み出す玉手箱総合産業研究所」という予算上の名称が農産物研究所は総合産業で10%を上げる研究所なのだと思解されたようである。10%アップということは市役所全体で所得を高めるという意味で申し上げたことと理解してほしい。

質問 私は、農業は儲からないもの、儲かる農業をしなければならぬものとして頭に入れ目指さなければならぬと考えている。うまい米づくりについては、付加価値をつけたブランド米構築への取組み、さらには、商品開発後の流通販売等の支援の実情などの課題を念頭に入れながら質問をする。

販売活動の基本的な考え及び方針は何か。

答弁 販売方針は、これまでに首都圏をターゲットに観光PRを兼ねた物販イベントへの参加を主眼に実施してきた。

山の楽市などイベント時はもちろんであるがイベント後の取引などに結びついている事例も多々あり引き続き実施すべき活動と考えている。これ以外にも25年度は、東

京料理産直懇談会やこれと平行して市内業者の連携のためのネットワークづくりに着手しようと考えている。

質問 市内各地に現在でも誇りを持って全国的に売り出している商品価値の作物がある。田沢の長芋、下延の芋の子など全国的に売り出しても恥ずかしくない生産物がある。これらは、土壌改良や肥料など研究を重ねた結果、価値あるものへと育っていった。市をあげて売り込む価値あるものがいくつある。市独自の政策を一層強力に推進する必要があるのでは

ないか。

答弁 昨年商工会主催の「田沢長芋まつり」が初めて開催され大変好評だったと聞いている。今後地域運営体と生産者と連携して生産体制の強化を支援していきたい。下延芋の子生産者の方々がご高齢にもかかわらず増産意欲が非常に高い。今後、組織作りによる生産体制の強化と企画の外の商品の加工利用などに強化を支援していきたい。

市内にはこれら意外にも地域産物があるが小口のロットや期間限定でも商談、マッ

チングに結びつけたいと思っている。一次加工品は、平成24年度産まで7トンまで取扱量が増えている。今後とも生産振興や新商品の開発、販路開拓の情報提供や、相談窓口としての役割も果たしていきたい。

質問 地場産作物の栽培力を高める方法として適地選定や土壌分析等を行おうとしているがどの地域をどんな目的で行ったか。

答弁 昨年10月生保内の農業者からの依頼でサ克蘭ポの栽培候補地3箇所の土壌分析を行っている。試験圃場に関わる土壌分析は実施していない。

質問 農業の原点は主食の米だと思う。農家の方たちは試行錯誤を重ね土壌改良、肥料の研究をしながらうまい米作りに挑戦している。しかし、これら有志の努力に頼るだけの農政で良いか。もっとブランド化を目指すべきでないか。

答弁 今年は、秋田県種苗交換会、来年度は国民文化祭を控えているのでブランド確立の良い機会と捉え積極的に取り組んでいきたい。

(狐崎捷瑠記)

質問 市はこれまで産業育成、雇用拡大による所得の向上を図る施策として「所得を生み出す玉手箱」総合産業研究所を開設し、商品開発、市場開拓を公約として進めてきたが、結果として玉手箱は、富、所得を生み出すことは出来なかったのではないかと思う。今の政策のままで所得10%の伸びの達成は不可能ではないか。

答弁 「所得を生み出す玉手箱」という表現については若干誤解があったの



商品開発の試食会

一般質問



・豪雪から市民を守るために

日本共産党仙北市議団 高久昭二 議員

厳しい豪雪から市民生活を守る為に

質問 除排雪の見直し、流雪溝の改修・新設計画、

地下水を利用した流雪パイプの設置、除雪計画の見直しや作業関係者・業者への指導徹底、高齢者や一人暮らしの方々に対する安否確認、小中学校児童生徒の通学路の安全確保、雪崩危険箇所那点検や安全対策等を網羅した仙北市克雪計画を各部署横断し、今後検討すべきではないか。

答弁 提案のあった仙北市克雪計画は、建設部の



克雪計画の早期策定を（雪の中の通学風景）

みならず、市民生活部、福祉保健部、企業局、教育委員会と多分野にわたる対策等が盛り込まれていなければ、その効果を発現できるものではないと思っている。提案をもとに今後、部長等会議を開催し、この計画の重要性を鑑み、どのような形で計画を策定できるか、内容をどうするのか等について研究をさせていきたい。

質問 安倍政権になり、円安、原油生産国等の諸

事情により、灯油やガソリン等の油類の連日の高値傾向が

続いており、仙北市民の生活を圧迫している。横手市では、75歳以上の高齢者・一人暮らし世帯、重度障害者、生活保護世帯、計約8千世帯に対し、3月に5千円の灯油券、灯油購入補助券を発行する事が決定された。仙北市でも、市民の強い要望に応えるよう、前向きに検討できないか。

答弁 必要性は十分に感じているが、平成20年に実施した際、公平性を重んじたつもりが不公平感を発生してしまい、多くの混乱を招いてしまったという反省があ

る。制度構築をする時間を是非にいただきたいのが正直な気持ちである。

TPP交渉参加推進と仙北夢牧場「大規模肥育牛団地」の問題点等について

質問 TPPに仮に参加し、関税撤廃、関税障壁が撤廃されれば、国産肉牛では乳用種牛肉は壊滅し、和牛も価格が暴落し、北海道全体で17万3千人以上が失業し、3万3千戸が離農を余儀なくされると想定している。県内においても、個人酪農家が壊滅的な打撃を受ける事は必至である。仙北夢牧場も、こうした事態になった場合、無傷で生き残る保障があるのか。

答弁 肥育牛団地の親会社はTPP参加を見据えた経営戦略を立てており、既に海外への輸出実績を持っていて、成果も得られている話を聞いている。仙北夢牧場でも、そのノウハウを生かし、仮にTPPに参加した場合でも、対応できる経営計画を立てていると伺っている。

大規模肥育牛団地整備事業推進と関係市民におよぼす影響及び市の責任について

質問 現段階では関係地域市民への生活におよぼす影響や諸問題がまだ解決されていないと感じる。もう少し腰を据えて検討、再考すべきではないか。

答弁 事業推進にあたっては、環境に対する公害防止等々の各法令を遵守し、細心の注意を払って建設、運営にあたる。関係住民への影響は極力減少するよう取り組んでいきたい。また、地元・事業主体・市との三者で協定を締結し、それぞれの責任の所在を明確にする事にしていく。

質問 飲料水の汚染、飲料水の安全供給確保、大規模肥育牛団地で使用される大量の水の確保に対するボーリングなど、水に関する関係地域への影響はないものかどうか、自信を持って言えるのか。

答弁 仙北夢牧場の水の件については、夢牧場自身の工事の中で、水源の確保を図る計画で事業を進めている。

(田口寿宜記)

一般質問



・大規模直売所について

仁政クラブ 黒沢龍己 議員

大規模直売所建設計画について問う

質問

仙北市の農業所得アップに繋がる施策として、また、6次産業化に向けた取組が重要であると考えられる。観光地である当市は季節型の直売所はあるが、通年型の直売所がない、国の政策でも攻める農業が必要であると言われる。私は先般、宮城県と岩手県の直売所を研修してきた。成功例あり、失敗例もあった。しかし、農家の所得アップに繋がる一番身近な選択肢であると考えられる。建設場

所の条件、環境の問題も考えなければいけないと思う。JAやスーパー等に卸しても手数料等問題が山積している。

そこで市の大規模直売所がどうしても必要と思う。市の考え方を伺いたい。

①現在計画があるか②想定される場所は③規模や事業者との話し合いは。

答弁

大規模直売所」の建設計画については国や県で整備に関する支援制度が後押しする中で、私自身大変興味を持っている事案である。本市の農産物等の直売所は現状では16ヶ所であり、季節型12ヶ所、常設型4ヶ所である。中には高齢化等で活動を休止しているところもある。平成22年度の販売額は2億4千万程度であり、数年は横ばい状態である。平成23年7月に仙北市農産物直売所連絡協議会を設置し課題を共有し種々問題に取り組んでいる。また、生産者、各直売所、JA等関係団体と市内における直売所の基本方針を共有していく必要があると考えている。市内に進出予定をしている企業の中には、農林、水産等を使用した、レストラン、直売所、加工販売等6次産業化に取り組むための拠点施設

の整備に向けた動きもあることから、競合関係、相乗効果、農業者にとって、市民にとって所得アップに繋がるべく検討中であり、②③については具体策はないのでご理解を頂きたい。攻めの農業に関しては、副市長より補足させる。

答弁

2件の食用関係誘致企業の事業が始まろうとしている、2社は地元への貢献度意

識も高い、誘致企業と組み合わせにより地場産品のより早い特産化、ブランド化も期待できると考えている。

市の除雪体系について

質問

私は今回、市の除雪について問う。毎年同じようなやり方で進歩していないのではないかと思う。前年度の除雪体系の検証で指揮命令系統が業者に任せきり



今年もオープンむらっこ物産館

で、何か問題あれば行動する体制でよいか。そこで私は次の5項目について問う①3地区の除雪機の配置台数 ②総延長 ③除雪機出動の判断 ④シーズンに入る前の現場の確認の指導、⑤シーズン中に市と業者の打ち合わせ連携はどうか。

答弁

3地区の配置台数については現状では、角館26台、田沢湖46台、西木16台である。細部については建設部長より答弁させる。

答弁

(建設部長) ①旧町村間の移動はない。1本の路線を旧町村間で別々に除雪していた部分について1業者に委託 ②角館148・4キロ、田沢湖231・5キロ、西木101・2キロである。

③担当職員が午後10時から12時迄パトロールして委託業者に出動指令④シーズンに入る前、担当する路線にポールの設置、障害物撤去の指示 ⑤シーズン中の打ち合わせは特別ない。

答弁

(市長) これまでの除雪対策より一歩踏み込んだ体制が必要と認識した。再度指示を徹底したいと思う。

(稲田 修記)

一般質問



・市長の基本施政方針を問う

民政会議 安藤 武 議員

市長の基本施政と市長選出馬を問う

質問 施政に関わる課題を延ばす事は、合併特例

期間を過ぎた後を考えると、行政運営は限界に達するし、職員の退職者数を見ても、今までの住民サービスが続かないのは明らかである。財政再建団体の原因の多くは、自治体で抱える病院や観光事業である。それに仙北市でも見られるような各会計へ繰り入れられる隠れ赤字が、自治体の財政を圧迫している実態の報道があった。常に健全化に向けて

努力をしなければならぬ。一番怖いのは、当局も議会もこれが当り前の予算編成だという感覚に陥る事である。膨らみ続ける歳出の切り込みが甘い。そして、無駄の排除の努力を怠ったと言われなければならない。お互いに努めなければならぬ。以上のことを踏まえてこの秋の市長選再選を目指す決意の程を伺う。

答弁 現実としては平成24年度の検証でやっとかもしれないが、現任期後半の検証方法の検討、また、至らなかつた点に対する指摘や批判を受け止め、改めるべきは改め、伸ばせる部分は大胆に伸ばしながら、次の4年間で仙北市が取り組むべきプランを市民の皆様提案する準備を進めている。課題を先送りしてはいけない。決意を持って次期市長選挙に挑む覚悟である。

角館庁舎移転計画について

質問 全員協議会において、角館庁舎移転計画についての説明があった。角館庁舎の危険状態からすると、緊急避難をしなければと思う。移転計画には緊急避難的と記されている。緊急避難と避難

的の言葉の意味合いは違うと思うが、「的」のついたその理由を伺う。

答弁 (総務部長) 緊急避難的とは、やむを得ずあるいはとりあえずという意味合いであり、長期に渡って緊急避難をする訳にはいかないだろうと判断している。角館庁舎を別の場所に移転するとすれば、一定期間、別の場所での業務を行うという意味合いと理解している。

質問 計画によるとかなり間の時間を要する。その間に起こりうる様々な心配を想定するならば、悠長な事は考えていられない。緊急避難というのはすぐに避難しなくてはならないという感覚であり、お金をかけない工夫があつてしかるべきだと思うが、市長はどう考えるか。

答弁 市民の方々の最大の移転をしなければ、行政は市民サービスをその是としているので、その是を覆す事があつてはならない。急いでいる部分で見落としてはいけない多くの視点を議会から提示頂き、コンセンサスを得られる道筋を作る事が最も近道ではないかという事も、考えに値するものだと思う。

二つの市立病院について

質問 二つの市立病院を守る事については、何ら異論はない。しかし、今の同じ制度で病院を両立していくには、決算から見ても分かるように大変厳しいものがある。財政の圧迫のトップになり得る事を避けて通れない状態の病院経営である。この状況をどう見ているのか。

答弁 病院は守らなければいけないと思つている。しかし、同じ特徴を有した2



緊急避難待たなし！角館庁舎

つの病院の存在についての考へ方には異論がある。一つの病院はそれぞれの機能を高め、お互いに補完し合う関係が好ましい。現在、改革推進計画に基づいて病院経営の改革を行っている。数値計画については一定の成果を上げているが、抜本的な健全経営にはほど遠いと認識している。

(熊谷一夫 記)

一般質問

・緊急のインフラ(社
資の本)総点検につ
いて
緊急のインフラ(社
資の本)総点検につ
いて



熊谷一夫 議員

緊急のインフラ(社会資本)総点検について
質問 高度成長期に造られたインフラが老朽化の危機に直面している。インフラを緊急に総点検する必要があると考えるが当局及び市長の考えを伺う。
答弁 命と暮らしを守るインフラの緊急総点検を行うべきと考えるがどうか。
質問 市の管理しているインフラの実態(橋、道路、学校、公共施設、上下水道他)が管理している主要な物は、市道が約891km、橋梁が562km、トンネルが8箇所、公営団地105棟276戸、公共下水道等の終末処理場11施設の管路延長197km、浄化槽施設685基、企業局では13箇所、配水池28箇所で管路延長約307km等を管理している。
質問 一番古いのは建築後又は竣工何年で、老朽化により緊急に補修・改善を迫られるインフラの数、概算の金額、今後の対策は…
答弁 市役所角館庁舎が一番古く築52年である。橋梁では山伏峠橋で72年が経過している。

て替え、廃止等の時期が来るものと認識している。今後は公共施設等の現状を詳細に把握する為の総点検を実施し、計画的な更新等に対処したいと考える。
質問 市の管理しているインフラの実態(橋、道路、学校、公共施設、上下水道他)が管理している主要な物は、市道が約891km、橋梁が562km、トンネルが8箇所、公営団地105棟276戸、公共下水道等の終末処理場11施設の管路延長197km、浄化槽施設685基、企業局では13箇所、配水池28箇所で管路延長約307km等を管理している。
質問 一番古いのは建築後又は竣工何年で、老朽化により緊急に補修・改善を迫られるインフラの数、概算の金額、今後の対策は…
答弁 市役所角館庁舎が一番古く築52年である。橋梁では山伏峠橋で72年が経過している。



老朽化が著しい赤平橋

トンネルは抱返りの6箇所が61年経過等である。橋梁は本年度策定した橋梁長寿命化修繕計画の優先順位に基づき86橋を10年間で7億円の事業費で修繕・改修を計画している。
質問 総点検により、インフラの整備事業へ優先順位をつけて、補修・修繕計画で長寿命化を図る考えは無いか。
答弁 現状は、公共施設老朽化の度合いが年々高くなっており、インフラ状況を適切に把握し、計画的な優先順位をつけた整備事業を推進しながら長寿命化を図り、費用の平準化をしていきたいと考えている。

通学路の安全対策について
質問 緊急合同点検実施状況について
答弁 (教育長) 昨年6月に通学路の緊急合同点検を実施。24箇所を危険及び要対策箇所とした。
質問 安全対策の策定後の整備進捗状況について
答弁 (教育長) 対策済が13箇所、本年度対策予定が8箇所、26年度以降の対策予定が3箇所となっている。
質問 通学路の安全・安心確保の為の実施計画はあるのか。
答弁 (教育長) 通学路の定期的な点検、街頭指導を実施し児童・生徒への注意喚起を促し、自ら命を守る実践力の育成に努めてまいりたい。
認知症対策について
質問 本市の高齢化率は33.6%で平成30年には高齢化率40%台となると推計されている。今、深刻な問題となっている認知症問題について伺う
答弁 本市の要介護認定申請結果は、平成20年が1118人で25年には1352人の方が認定と推計している。今後、更に増加するものと推定される。
質問 認知症予防への取組みとサポーター制度の施策
答弁 保健師が認知症予防等の健康教育や良質な刺激と脳の活性化を図る為、体操や手芸教室などを定期的に開催している。市内で1253名の認知症サポーターがいるが今後も養成拡大に努めたい。認知症サポーター医師も居るので今後の対策、施策を進めていきたい。
質問 若年性認知症の患者と家族へのサポート体制について
答弁 市では44人が若年性認知症と認定されている。グループホームが不足している現状なので整備計画を進めたい。包括支援センターを中心に包括ケアシステムを実現し、本人及び家族などが気軽に相談でき、安心して暮らせる環境づくりを目指したい。

(田口寿宣記)

一般質問



・再度廃校利用について

民政会議 狐崎捷琅 議員

再度廃校利用について

質問 過去に3回ほど廃校利用について質問したい。

私は、廃校になった西長野小学校を総合型地域スポーツクラブに管理運営させるという市のマスタープランには大賛成である。

私はこれに民営化による地産地消の「道の駅」的なものをドッキングさせたら地元経済も潤うだろうと思うがどうか。

答弁 西長野小学校については活用を促進して維持管理するため、仙北市マスタープランに記載されているように関係者の理解を得ながら指定管理者等への委託を行いたいと考えている。

地産地消の「道の駅」を西長野小学校に持ってきたらという案には現在民間の物産館と花葉館との距離が直線6キロの中間地点にあり、生産者との産直活動や食材提供の連携が図られている。それ故、現在はそんな考えを持ち合わせていないが、あくまで地元や地域の方々の盛り上がりが大切であると考えている。

現に何点か地元集落の方々からご提案も頂いている。**質問** 学習支援「お助けマン」通称「学びびず」について質問したい。

「お助けマン」は、当初、退職教員が集まって角館で小学生や中学生に勉強を教えたことから始まり、現在では田沢湖、西木、大曲方面からも来て学んでいる。

教える方たちも高校生や一般市民の方まで広がっている。資金面は、現在も最初呼びかけた先生のご厚意に頼っている。最近では人数も増え、生徒数も120人以上

にもなっているのでコピー代もままならないと聞く。そこで市民のために頑張っておられる方たちのお茶代、コピー代その他の経費として補助できないか。

答弁 (教育長) 日頃からお助けマンの活動は素晴らしい活動だと思っている。恐らく、全県でもトップクラスで、この噂を聞きつけて前の根岸教育長が視察に来たほどである。ただ、資金面では、スポーツ活動で全くのボランティア活動をしている方たちもおられるのでその方たちとのバランスもとらなければならぬというところもある。それ故、もう少し検討させていたいただきたい。

質問 田沢湖球場の特に夜間照明の撤去についてお聞きする。

総務文教委員会では田沢湖球場の夜間照明を撤去するというお話をお聞きしたが、私は夜間照明を撤去すべきでないと考えている。夜間照明は確かに維持費も大変で他の自治体でも段々取り去ってきている。

私は、だからこそ田沢湖球場は夜間照明を残すべきだと考える。田沢湖球場に夜間照明があるということ様々な利用価値が逆に出てくるもの

と思われるし、これを売りにして合宿やイベントを売り込むことも出来ると思われるのでこの点について伺いたい。

答弁 生保内公園野球場については今年度に改修工事が完了し、平成26年4月に使用できる。夜間照明に関しては、利用状況や野球連盟との協議により、撤去の方向で検討してきた。しかし、その後施設の改修で、利用活用が更に図れるというご指摘を頂いているのも事実である。

現状でも使用できる状況であることから公式試合などでは使用できないものの市の方針である交流人口の拡大または事業の開催目的による市のイベント、大会、文化関係等の開催目的によって使用できればと考えている。

いずれ、存続か廃止かは関係団体とかさねて協議を続けていかねばならないと考えている。



生保内公園野球場の改修中

(伊藤邦彦 記)

仙北市議会会派

(平成25年4月1日現在)

会派名 民政会議

代表 伊藤 邦彦
副代表 阿部 則比古
副代表 安藤 武
幹事長 狐崎 捷琅
経理兼事務長 門脇 民夫

会派名 翠巒会

代表 小林 幸悦
副代表 藤原 助一
幹事長 田口 喜義
荒木 俊一

会派名 侍志の会

会長 小田嶋 忠
幹事長 八柳 良太郎
青柳 宗五郎

会派名 仁政クラブ

代表 佐藤 直樹
副代表 黒沢 龍己
幹事長 田口 寿宜
高橋 豪

会派名 日本共産党仙北市議団

団長 高久 昭二
幹事長 平岡 裕子

会派に所属しない議員

佐藤 峯夫
稲田 修夫
熊谷 一夫



総務文教常任委員会

本会議より付託された議案は、条例関係5件、平成25年度各特別会計予算4件、平成24年度各特別会計補正予算4件、公の施設の指定管理者の指定1件、その他2件の計16件である。また、予算常任委員会より平成25年度仙北市一般会計予算及び平成24年度仙北市一般会計補正予算(第7号)の内、総務文教分科会に係るものが分担された。

賛成討論

土曜日の運行、年末30日までの運行と利用者の利便性に配慮されている。6月1日の実施まで準備期間を要するが、引き続き利用者からの要望や意見を尊重し、検討していただきたい。

○採決の結果

条例改正関係5件、集中管理、生保内財産区、田沢財産区、雲沢財産区の各特別会計平成25年度当初予算4件及び前記4つの特別会計の平成24年度補正予算4件、公の施設の指定管理者の指定1件、その他2件については、全会一致で原案を可とすべきものと決定した。

■議案第14号

仙北市市民バス条例の一部を改正する条例制定について

問 松葉から角館までがデマンドに変わった時に反対運動が起きたが、今の状況はどうなっているのか。

答 全く反対がない訳ではないが、上松木内のデマンド型タクシーの利用は増えている状況にある。

反対している方々については、団体の代表の方々を中心に、今も定期的に話し合いを持って進めている。

答 公債費適正負担計画等、行政改革の指針を出し、財源を捻出するための作業を行っている。実施計画との兼ね合いもあるが、今後の公債費の増高を抑え、人件費の削減等で財源を捻出して行きたいと考えている。

また、歳入を増やす観点から、市民所得の向上や観光客の増加等、色々な施策を講じ市税の増収を図って行きたい。

問 地域運営体について、決算の際も指摘をされているが、事業の棲み分けについては、市長を含め十分に協議・精査し、各事業計画に基づいて認めた内容か。

答 平成24年度から全運営体が揃い、行った事業を検証し、色々な意見や指摘を基に、ガイドラインを作成した。平成25年度の事業計画に当たっては、ガイドラインに沿い12月中に提出して頂き、当初予算の査定でも協議できる状況を作った。これを市役所内の関係部長等で調整会議を行い、不都合な点がないかを協議として頂いた。概ね妥当であるという判断の下、各運営体に伝え、協議会は開催してい

いが、役員並びに会長・副会長に集まって頂き、各運営体の事業計画を見てもらい、平成25年度はこれを基に進めて行く事を確認している。

問 クリオン温水プール改修事業費について、プールが必要で改修という事は理解できるが、第3セクターの経営改革の絡みもあるのではと思う。経営改革が進んだ時、プールがどんな役割を果たすのか、常に展望を持つべきである。

答 この予算を付ける意味と第3セクターの経営改革をリンクしながら進めるべきと思うかどうか。

答 第3セクターについては、指定管理業務と関わって来る。その中でプールの運営については、どんな運営の仕方があるのか協議をして行く。合併後の議会への陳情が採択になったように、プールの必要性の考え方を尊重し、是非、進めていきたい。

平成24年度仙北市一般会計補正予算(第7号) 問 第3セクターに対する公金の支出の仕方や経営の在り方を含め、今後の方向性を伺う。

答 仮に統合となる場合、今抱えている負債をどう処理するかという事で、公費の負担は避けられない。一時的にそうした問題が発生すると思う。

現状のまま行くにしても、指定管理料の問題、老朽化している施設の誘客の為の施設整備をどうするか等の問題がある。各会社ごとに、きちんと方向性を出さないと、仮に統合するとしても行き当たりばったりのものではないかと思う。非常に難しい要素があるので、方向性を出すには慎重に行かなければならない。

問 平成24年度仙北市一般会計補正予算(第7号) 問 第3セクターに対する公金の支出の仕方や経営の在り方を含め、今後の方向性を伺う。

答 仮に統合となる場合、今抱えている負債をどう処理するかという事で、公費の負担は避けられない。一時的にそうした問題が発生すると思う。

現状のまま行くにしても、指定管理料の問題、老朽化している施設の誘客の為の施設整備をどうするか等の問題がある。各会社ごとに、きちんと方向性を出さないと、仮に統合するとしても行き当たりばったりのものではないかと思う。非常に難しい要素があるので、方向性を出すには慎重に行かなければならない。

問 平成24年度仙北市一般会計補正予算(第7号) 問 第3セクターに対する公金の支出の仕方や経営の在り方を含め、今後の方向性を伺う。

答 仮に統合となる場合、今抱えている負債をどう処理するかという事で、公費の負担は避けられない。一時的にそうした問題が発生すると思う。

現状のまま行くにしても、指定管理料の問題、老朽化している施設の誘客の為の施設整備をどうするか等の問題がある。各会社ごとに、きちんと方向性を出さないと、仮に統合するとしても行き当たりばったりのものではないかと思う。非常に難しい要素があるので、方向性を出すには慎重に行かなければならない。

問 平成24年度仙北市一般会計補正予算(第7号) 問 第3セクターに対する公金の支出の仕方や経営の在り方を含め、今後の方向性を伺う。



利便性が高まる市民バス

(田口 寿宜記)



市民福祉常任委員会

本会議より付託された案件は、議案14件。予算委員会から付託された議案は2件である。

■議案第37号平成25年度仙北
市後期高齢者医療特別会計予
算

反対討論

年齢で差別する制度自体に反対。支援分は国保料に加味され、出生から74歳まで負担の高い国保税になっている。年金から自動的に天引きされる保険料は高齢者の楽しみを奪っている。

賛成多数で可決した。

■議案第38号平成25年度介護
保険特別会計予算

全会一致で可決した

■議案第43号平成25年度仙北
市病院事業会計予算

反対討論

両病院とも黒字予定額であるが、平成24年度決算は赤字であった。予算額と大きな隔たりある。

賛成討論

患者サービスの点では、患者サービスの向上に取り組み、患者がリピーターとなるように、赤字額が最小になるように努力してほしい。

賛成多数で可決した。

■議案第47号平成24年度仙北
市病院事業会計資本剰余金の
処分について

■議案第53号平成24年度仙北
市国民健康保険特別会計補正
予算(第3号)

■議案第54号平成24年度仙北
市後期高齢者医療特別会計補
正予算(第1号)

■議案第55号平成24年度仙北
市介護保険特別会計補正予算
(第3号)

■議案第60号平成24年度仙北
市病院事業会計補正予算(第
3号)

■議案第67号仙北市障害程度
区分認定審査会の委員の定数
等を定める条例の一部を改正
する条例制定について

全会一致で可決した。

■議案第31号仙北市一般会計
予算

街灯費及びLED街灯ESC
O(エスコ)事業について

問 事業の概要と市・地域で
管理する街灯が混在している
がどのようにするのか

答 市が公募でESCO事業
者を選定しLED化に対する
設計・施工等を一括してその
費用を負担する。10年間にわ

たって、LED化による光熱
費経費削減実績から一定額を
報酬として受け取る。当市で
は、公共の街灯が2320基、
民間管理街灯が1657基と
混在しているので、今回の提
案は、公共、民間いずれの街
灯も対象にする。工事費用
もLED化促進、民間管理団
体が多数であるので統合性を
図るために市が負担をする。
今後10年間は、事業者が管理
するが、そのあとは、市、民
間で管理することになる。

子どもの医療費助成について

問 通院は小学校卒業まで、
入院は中学生まで対象になっ
た。中学生の通院まで拡大す
ることを検討したか。

答 今後小学校高学年のデー
タを参照し、試算したうえで、
中学生通院までの更なる拡充
について検討したい。

防災行政無線維持管理費につ
いて

問 平成25年度の維持管理費
の内容は。

答 業務委託の継続分であ
る。3年契約の2年目になる。
角館エリア分のデジタル無線
は、2年間無料で維持管理と
なる。

問 設置済みの田沢湖・西木
エリアにおいて、放送が聞き
取りにくいとの声が聞かれ
る。どのように対処するのか。

答 (市長) 角館の防災行政
無線はデジタル対応である
が、他エリアはアナログ対応
となっている。今後27年度ま
ではデジタル化していく計
画でいるが、ラジオによって
アナログ防災無線の電波を受
信できるものを試験的に導入
したい。費用的に高額でない
ようだ。試験の結果が良好で
あれば、高齢者世帯などを中
心に、今後アナログ防災無線
を受信できるラジオの設置も
考えていきたい。

■議案第48号平成24年度一般
会計補正予算(第7号)

問 大腸がん検診の実績は。
答 研究事業は1万人を対象
に平成21年度から実施してい
る。40歳から74歳までの対象
者は1万4千人いるが約3千
人の参加である。23年度から
は大仙市の一部を対象に加え
7百人の参加があった。25年
度は、大仙市全域に拡大し
6千人の参加を見込んでい
る。

(平岡裕子記)

■議案第36号平成25年度仙北
市国民健康保険特別会計予算
反対討論

繰越額が2億円を超すと、
できるだけ基金の積み立てに
回すとのことであるが被保険
者の経済は疲弊している。税
率を引き下げる内容になって
いない。



産業建設常任委員会

本会議より付託された議案は33件、請願1件、予算常任委員会より付託された議案は2件である。

■議案第18号
仙北市水道事業給水条例の一部を改正する条例制定について

■議案第21号
仙北市集落排水事業受益者分担金条例の一部を改正する条例制定について

■議案第29号
平成25年度仙北市簡易水道事業特別会計への繰り入れについて

■議案第33号
平成25年度仙北市下水道事業特別会計予算

■議案第5号
仙北市市道の構造の技術的基準等を定める条約制定について

■議案第19号
仙北市浄化槽整備事業に関する条例の一部を改正する条例制定について

■議案第22号
仙北市県営土地改良事業等分担金徴収条例の一部を改正する条例制定について

■議案第35号
平成25年度仙北市浄化槽事業特別会計予算

■議案第46号
平成24年度仙北市簡易水道事業特別会計への繰り入れ額の変更について

■議案第6号
仙北市準用河川に係る河川管理施設等の構造の技術的基準等を定める条約制定について

■議案第20号
仙北市集落排水施設条例の一部を改正する条例制定について

■議案第23号
仙北市営住宅条例の一部を改正する条例制定について

■議案第42号
平成25年度仙北市簡易水道事業特別会計予算

■議案第51号
平成24年度仙北市集落排水事業特別会計補正予算(第2号)

■議案第7号
仙北市営住宅等の整備基準を定める条例制定について

■議案第24号
仙北市下水道条例の一部を改正する条例制定について

■議案第26号
平成25年度仙北市下水道事業特別会計への繰り入れについて

■議案第44号
平成25年度仙北市温泉事業会計予算

■議案第52号
平成24年度仙北市浄化槽事業特別会計補正予算(第2号)

■議案第8号
仙北市都市公園の設置を定める条例制定について

■議案第9号
仙北市布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に対する条例制定について

■議案第27号
平成25年度仙北市集落排水事業特別会計への繰り入れについて

■議案第49号
平成24年度仙北市簡易水道事業特別会計補正予算(第3号)

■議案第59号
平成24年度仙北市簡易水道事業特別会計補正予算(第3号)

■議案第16号
仙北市簡易水道事業給水条例の一部を改正する条例制定について

■議案第17号
仙北市小規模水道事業等給水条例の一部を改正する条例制定について

■議案第28号
平成25年度仙北市浄化槽事業特別会計への繰り入れについて

■議案第61号
平成24年度仙北市水道事業会計補正予算(第3号)

■議案第62号
市道の変更認定について

■議案第9号
仙北市布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に対する条例制定について

■議案第10号
仙北市簡易水道事業給水条例の一部を改正する条例制定について

■議案第30号
平成25年度仙北市浄化槽事業特別会計への繰り入れについて

■議案第66号
仙北市手数料条例の一部を改正する条例制定について

■議案第68号
仙北市道路占用料徴収条例の一部を改正する条例制定について

■議案第11号
仙北市簡易水道事業給水条例の一部を改正する条例制定について

■議案第12号
仙北市小規模水道事業等給水条例の一部を改正する条例制定について

■議案第31号
平成25年度仙北市浄化槽事業特別会計への繰り入れについて

■議案第63号
市道の変更認定について

■議案第64号
仙北市手数料条例の一部を改正する条例制定について

◎討論
一刻も早く課題解決する為に、着実な予算執行に努めていただきたいとの意見を付して本案に賛成する。

全会一致で可と決定

全会一致で可と決定

答 本来は市民への説明会等が必要だったかもしれない。下水道事業として経営が成り立たない為、不足分を一般会計からの繰り入れでまかなっている。条例改正により受益者から負担していただかなければ厳しい。改正で収入が約400万円上がる見込み。平成27年度からは個別浄化槽に切り替えていく考えである。

問 条例改正を市民へ説明されていらない事とその影響額、事業の今後の方向性について。

問 高原地区に供給している源泉の今までの経過とこれからの取組みについて。

■議案第65号
市道の変更認定について

問 条例改正を市民へ説明されていらない事とその影響額、事業の今後の方向性について。

■議案第32号
平成25年度仙北市浄化槽事業特別会計への繰り入れについて

■議案第67号
仙北市手数料条例の一部を改正する条例制定について

■議案第69号
仙北市道路占用料徴収条例の一部を改正する条例制定について

問 条例改正を市民へ説明されていらない事とその影響額、事業の今後の方向性について。

■議案第33号
平成25年度仙北市浄化槽事業特別会計への繰り入れについて

■議案第70号
仙北市手数料条例の一部を改正する条例制定について

■議案第71号
仙北市道路占用料徴収条例の一部を改正する条例制定について

◎討論
集落排水事業は汚水処理原

■議案第34号
平成25年度仙北市集落排水事業特別会計予算

■議案第72号
仙北市道路占用料徴収条例の一部を改正する条例制定について

■議案第73号
仙北市道路占用料徴収条例の一部を改正する条例制定について

■請願第1号
最低賃金の大幅引き上げと、
中小零細企業の支援の拡充を
求める陳情書

委員会全員の発議により議
員提出議案として本会議へ追
加提案する事を決定

■議案第31号
平成25年度仙北市一般会計予
算

- 4款 環境衛生費
- 5款 労働費
- 6款 農林水産業費

問 大規模肥育牛団地の施設
の完成予定と牛の導入計画は
あるか。

答 5月末に事業着手し
9月末の完成予定。最初
北海道から200頭の肉
用牛を、10月からは秋田
総合市場から毎月30頭で
25年度は180頭を導入
予定である。

問 木質バイオマス事業
に関して、大規模改修し
ても稼働率60%、月5万
kwで当初計画の月10万
kwに届かない。ここに
至っては結論を示してい
ただかない限りは納得で
きない。

答 やり残して悔いの残
らないようにあらゆる手



産業建設常任委員会の審査

法でこの数ヶ月間は対応し努
力したい。やめるとなっても
補助金の返還、起債の償還も
発生する。出来る範囲内で最
善を尽くすので取組みさせて
欲しい。

■議案第48号
平成24年度仙北市一般会計補
正予算(第7号)

- 7款 商工費
 - 8款 土木費
 - 11款 災害復旧費
- 慎重に審査した。
(熊谷 一夫記)

傍聴席

議会を傍聴して

宮崎一三(田沢湖)

今回の傍聴は2回目になり
ますが、前回の粗雑な数字に
よる質問内容に比較すると、
この度は数字等もよく把握し
ており多少なり迫力も感じら
れました。その点市長以外の
部局の答弁が下を向き事務的
に読み上げる姿には何とも残
念でありました。

私は観光関係の仕事をして
おりますが、やはり2年前の
大震災の影響は大きく業界の
回復にはほど遠いと強い懸念
を抱いております。

今まで議員の方々が多額の
先進地視察費を使っているの
にもかかわらずその成果が何
かに反映されているのか、ま
たそれ以上に危機感を持って
いるのか、非常に疑問であり
ます。

もちろん、私たち民間企業
も懸命な鋭意努力は当然です
が、イベント等計画、実行の
際は市長、市議会議員の皆様
に是非ご協力を頂き当地観光
の発展に寄与していただきた
いと思います。

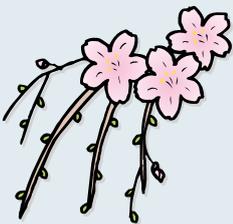
行政サービスに スピーディーに

千代義光(角館町)

今回で3回目の議会を傍聴
させて頂きました。農
政、教育、雪害、TPPなど
を熱心に討議されておりま
したが、1時間の時間内で質疑
応答を抽象的表現でなく、提
案型や具体的応答で、時間を
有効に活用することが、より
多くの問題を討議できると思
われます。

10年一昔は、現在では5年
または3年一昔といわれるよ
うに、スピードが求められて
いる時代です。最終目的は仙
北市民に細やかな行政サービ
スをスピーディーに提供するこ
とではないでしょうか。ある
塾講師も言っています。

「いつやるんですか?それは
今でしょう!」
色々問題はあると思いま
すが、議会、行政、関係者各
位、益々のご活躍を期待して
おります。



人事案件

- 田沢財産区管理委員
- 羽根川 覺氏 (仙北市田沢湖田沢字先達86番地)
- 藤原 修氏 (仙北市田沢湖田沢字大山3番地1)
- 千葉 栄幸氏 (仙北市田沢湖田沢字寺下94番地)
- 千葉 恒昭氏 (仙北市田沢湖田沢字打野119番地1)

編集後記

種苗交換会の開催が決まっ
た。かなりのお客様がくる。
景気の長引く低迷、2年前
の東日本大震災の打撃から脱
却できない観光業者、商工業
者はかなり多く、合併時56%
半ばの組織率が今53%半ばま
で落ち込み危険水域に入っ
た。50%を切ると自動解散と
なる。

先の商店街活性化アン
ケートで、秋田DC、種苗交
換会、国民文化祭に期待す
ると答えた割合がそれぞれ
47%、36%、36%であつた。
肥育牛団地に2億円の予
算がついたが、それより先に
市として腰を据えた観光の取
り組みが必要である。

(八柳良太郎記)